

## 高速道路考



小林 洋平 (春秋会)

現在、私は名古屋圏に住んでおります（実際には、「三重県桑名市」に居住しておりますが、この地名では全国的には分かってもらえないことがあるので、自己紹介の際には、「ナゴヤ」と言うことにしております）。一方、私の実家は広島にあるので（これも実際には、「尾道市」であります。この地名は、大林映画監督のおかげで多少知れておりますが、如何せん地方都市なので、ウケのよい「ヒロシマ」と言うことにしております。ついでに言うと、ヤクザ映画の広島弁と尾道弁とは、イントネーションや単語が多少異なっております。）、自動車で帰省する場合には、各地の高速道路を利用することになります。

通常利用するルートとしては、桑名から東名阪自動車道（この自動車道では、先日大きな事故があって、5名が亡くなったので、お聞き覚えがあるのではないのでしょうか）を利用し、亀山から西名阪自動車道（この自動車道は、高速道路ではありませんが、信号のない片側2車線以上の自動車専用道路です。私を除いて、ほとんどの通行車は、時速80km以上で走行しているようです。）に入って奈良県天理市に至ります。そこからは、再び高速道路となり、松原JICから近畿自動車道を利用して大阪を縦断した後、吹田から中国自動車道を用い、神戸JICから山陽自動車道に分岐して尾道まで至るというものです。このルートの全走行距離は、440km程度なので、平均時速100kmで走行した場合には、約4時間半のドライブとなる計算です（但し、途中の休憩と、都市部での多少の渋滞があるので、実際には約6時間程度の行程です。それでも、ここ10年間の道路整備のおかげで、時間は格段に短くなっています。）、

上記のルートのうち、大阪に入るまで（東名阪道～西名阪道）は、適当な利用台数があるものの、比較的良好に走行することができます。さすがに、大

阪市内を通過するときには、自動車数も増加するため、許容できる程度の自然渋滞が発生します。特に吹田JICでは、お盆・正月の帰省ラッシュの際には、10km以上の渋滞が発生することもあり、1時間以上のノロノロ運転を強いられることがあります。

一方、山陽自動車道は、比較的最近になって整備されたものであり（私の思い違いでなければ、1994年の広島アジア大会に向けて全線が開通されたはずですが。）、全線が片側2車線または3車線の高速道路です。この自動車道は、利用台数が少ないために（特に、郷里に近づくに連れて顕著です）、平均時速が100kmに近い状態で走行することが可能です。

今回の夏休みには、往路として上記ルートを利用しましたが、復路には、尾道から「しまなみ海道」を経由して四国に渡り、高知県まで足を伸ばしました。寄り道の目的は、末子の希望であるアンパンマンミュージアムを訪れることでした。この施設は、アンパンマンの作者である「やなせたかし氏」の郷里（高知県香美郡香北町）に、1997年に建設されたものです。当地は、自然に満ちた風光明媚な場所（悪く言うと、人口・施設共に少なく、地理的にも便利とは言い難いところなので、敢えてこの場所にミュージアムを建設した勇氣は立派なもの（無鉄砲）だと言えましょう。）であり、すぐ近くにはキャンプ場も設けられています。アンパンマンミュージアムは、設立時の予想に反して大盛況となり、連日多くの家族連れで賑わっているようです。10年ほど前に、ほとんどの地方博覧会が莫大な借金を抱えて大失敗と終わったのに比べると、一つのアニメキャラクターが年間数十万人の観光客を引き付けているのには驚きました。ミュージアムには、作者の原画の他に、多くのキャラクターの立像（アンパンマンには、1,000以上のキャラクターが登場しており、現在でも

その数は増加しているそうです。作者自身も忘れて  
いるキャラクターがいるので、大図鑑を見なければ  
描画できないこともあるとか。) ミニチュアタウン  
などが展示されており、大人にもそれなりに楽しむ  
ようになっていました。

また、宿泊には、キャンプ場のコテージを利用し  
ました(拙宅には4人の子供がいるので、一家6人  
のホテル利用費を浮かせるためと、子供達に少しで  
も自然を身近に感じてもらうためであります。) 最  
近のキャンプ場の多くには、従来のテント場の他に、  
バス・トイレ・調理台付き(時には、エアコン完備)  
のコテージが付属しているので、家族連れには便利  
です。夜食と朝食には、近所のコンビニで買った弁  
当を持ち込んだので、妻の手間も増えず、不満も聞  
かれませんでした。これには、賛否両論があるかと  
思います。つまり、キャンプ場に泊まったのだから、  
飯ごう炊さんを行い、キャンプファイヤーを取り  
囲むのが、正当なキャンプ場の利用法であろうと  
いうものです。子供達が、もう少し大きくなったら、  
私もそのような利用法を試みたいと思います。

さて、高知から桑名までは、四国内の高速道路(高  
知自動車道～徳島自動車道)を利用し、明石～鳴門  
ルートを利用して神戸に至り、阪神高速～環状道路  
を経て、松原JICにたどり着きました。その後は、  
上記通常ルートの逆方向を用いました。

四国内の高速道路は、片側一車線の場所が多く、  
所々に追い越し車線が設けられているという構成が  
採られていました。このため、利用台数は少ないも  
の、遅速車が律速となって、片側一車線の領域で  
は、数台の自動車縦列状態となってしまいます。  
そして、追い越し車線に至ると、後ろに並んだ高速  
車の多くが、最前の遅速車を追い越すという現象が  
見られました。遅速車の後ろに付いたままで追い越  
し車線を過ぎてしまうと、再び縦列状態となってし  
まうので、追い越し車線が設けられている領域では、  
必死に加速をしてできるだけ前に走り込むという  
ゲーム感覚の運転が楽しめました(これは、クラブ

活動で、複数のメンバーが縦列走をしながら、最後  
尾を走る者が他のメンバーを追い越して最前に至る  
というトレーニングのようでした。) また、四国には  
山間部が多いため、高速道路には、予想外に多くの  
トンネルが設けられていました。特に、四国山地を  
南北に縦断する高知自動車道には、数百メートルか  
ら数キロメートルに及ぶトンネルが連続して19個も  
設けられていました。私の不勉強から、何となく「四  
国は平ら」というイメージがあったので、少なから  
ず驚きました。一方、愛媛県を東西に走る松山自動  
車道は、四国山地の麓に沿って設けられており、北  
側には瀬戸内海を南側には四国山地を見ながら走行  
するようになっています。南側を見ると、四国山地  
の高い峯々(1,500メートルを超える山頂が点在して  
いる)の様子は、まるで日本アルプスの横を通る中  
央道の景色のようにも見えました。また、北側を見  
ると、島の少ない瀬戸内海と、コンビナートが散見  
されました。

今回の四国行では、二つの本四連絡ルートを利用  
しました。しまなみ海道は、点在する複数の島間を  
結ぶ橋から構成されており、尾道と今治との間を連  
結しています。各橋の間は、各島に設けられた道路  
(必ずしも高速道路ではない)を通行するようにな  
っており、ローカルな情緒を楽しむことができました。  
また、明石鳴門ルートは、二本の豪快な大橋(大鳴  
門橋と明石海峡大橋)によって、鳴門海峡と明石海  
峡とを乗り越えるもので、鳴門海峡では白波が立つ  
渦を、明石海峡では素晴らしい神戸の景色を楽し  
めました。

なお、各地のサービスエリアで食事や休息を取り  
ましたが、一昔前の状況(汚い・まずい・高い)に  
較べると、格段にサービスが向上しているように感  
じられました。

以上、全行程が長かった割には、急ぎ足で通り過  
ぎましたが、思った以上に各地の高速道路旅行を楽し  
むことができ、(阪神高速での慢性的な渋滞を除けば)  
非常に満足できました。